

# 技能統合型のリーディング指導の研究

——スピーキングへ繋げるクロズリーディングによる音読指導について——

津 村 敏 雄

## 要 旨

2014年に全国の中学生と高校生に実施した英語学習に関する調査によると、4技能のなかで、リスニング・スピーキング・ライティングを難しいと思っている生徒が多いのに対して、リーディングを難しいと感じている生徒は少ないという結果が報告されている。現行の中学校と高等学校の『学習指導要領』では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能をそれぞれ育成することに加えて、技能を統合して総合的な学習指導をすることを提示している。本稿では、リーディングに対する学習意識の特長を活かして、苦手意識のある他技能を統合する総合的な指導（リーディングからスピーキングに繋げる指導）で、かつ校種（中学校・高等学校）に関わらずに行える汎用性の高い言語活動であるクロズリーディングによる音読指導の具体的な手法について論じる。

## I. はじめに

2014年3月にベネッセ教育総合研究所が全国の中学生と高校生を対象（中学1年生から高校3年生までの6,294名）に実施した「中高生の英語学習に関する実態調査2014」によると、高校生は全体的に数値が中学生と比べて高いものの、英語の4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）のなかで、リーディングを難しいと思っている生徒が他の技能に比べて非常に少ないことが中学生も高校生も共通している（表1）。つまり、英語の4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）では、リスニング・スピーキング・ライティングには自信がない（どちらかと言えば苦手である）が、リーディングならば何とかなる（どちらかと言えば得意である）と思っている生徒が多い。学習効果の観点からしても、4技能の学習意欲の均整がとれている状態が望まし

表1 中高生の英語学習に対する意識

	中 学 生	高 校 生
英語の文を話すのが難しい	56.3	72.9
英語を聞き取るのが難しい	60.2	70.9
英語の文を音読するのが難しい	39.9	44.3
英語の文を書くのが難しい	65.7	77.5

（出所）『中高生の英語学習に関する実態調査2014』（ベネッセ総合教育研究所）  
より筆者作成

いことは言うまでもない。では、苦手意識が高い技能に自信をつけさせるにはどうしたらよいのか。この問いを考える上で、池谷（2002）や川島（2003）などの脳科学の知見による苦手科目の克服方法が参考となる。それは、「得意科目をさらに伸ばすと苦手科目は苦手ではなくなる」という従来の発想とは真逆の考え方である。つまり、通常は、苦手科目を克服する場合、苦手科目の勉強時間を増やすなど苦手科目に焦点を当てて集中的に学習をしようとすることが多い<sup>(1)</sup>。ところが、むしろ得意科目を伸ばす学習をする（苦手科目は敢えて積極的にやらない）ことで、その科目を「どちらかと言えば得意」という状態ではなく「得意中の得意」という域にまで到達させる。すると、勉強そのものに大きな自信を持つようになり、今までは根気がなくて集中することができなかった苦手科目も落ち着いてしっかりと勉強することができるようになる。その結果、（通常の方法よりも時間をかけずに）苦手科目を効率よく効果的に学習することができるという考え方である。

では、学習指導要領の「読むこと」に関する記述を確認して整理した上で、リーディングの技能を中心としながらも、スピーキングの技能の向上にも繋がる技能統合型の言語活動となるクローズリーディングによる音読指導について、教材の作成から授業での実践までの指導方法を述べる。

## Ⅱ. 学習指導要領における「読むこと」の言語活動：中学校

現行の『中学校学習指導要領』（平成20年改訂）には、中学校の外国語（英語）の目標に、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。」と記述して4技能の基礎の養成を掲げている。そして、「読むこと」の目標には、「英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。」と記述し、文章の意味内容を表面的に理解するだけではなく、書き手がどのような意図で文章を著しているのかなどを理解することを目指している。さらに、「読むこと」の言語活動として5つの指導事項を挙げている<sup>(2)</sup>。

表2 中学校「英語」の「読むこと」の言語活動

- |  |
|--|
| <p>ア 文字や符号を識別し、正しく読むこと。</p> <p>イ 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。</p> <p>ウ 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。</p> <p>エ 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。</p> <p>オ 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。</p> |
|--|

（出所）『中学校学習指導要領』（平成20年改訂）

表2のアからウまでの指導事項は、リーディングの基本技能に焦点を当てたものである。イの「内容が表現されるように音読する」とは、例えば、登場人物に扮して強弱をつけて声の大きさや読む速さを変えたりするなど、感情豊かに表現して音読することである。エとオの指導事項は、リーディン

グと他の技能と統合する技能統合型の指導事項である。エの「伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じる」とは、例えば、手紙やメールを読んで相手に返事を出す場合、必要となるのはリーディングの技能とライティングの技能である。これに対して、手紙やメールを読んで電話やボイスメッセージで相手に伝える（留守番電話への録音を含む）場合、必要となるのはリーディングの技能とスピーキングの技能である。オの「感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」とは、文章の感想を述べるだけではなく、話の内容について考えた上での賛否やその理由を表明することである。例えば、文章の感想や賛否について、発話（音声）で表す場合に必要となるのはリーディングの技能とスピーキングの技能であり、筆記（文字）で表す場合に必要となるのはリーディングの技能とライティングの技能である。このように、中学校の「英語」の「読むこと」の言語活動には、リーディングの技能についての指導のみならず、リーディングの技能と他の技能を統合する総合的な指導について記されている。他技能を統合する総合的なリーディングとは、主体的な読み手として文章の内容を考えたり判断しながら読んで理解するとともに、知識を得ることに留めるのではなく自らの体験や考えなどに照らして、スピーキングやライティングなどの他の技能と結び付けて積極的にコミュニケーション活動を行えるようにすることである。リーディングの技能のみに焦点を当てたリーディング指導を見直し、書き手の意図を適切に理解したり、読んだ後に感想を表現し合うような言語活動を行わせることが大切である。また、「読むこと」の領域の学習は、中学校から導入されることを考慮して、小学校における「外国語活動」との円滑な接続を図るように留意したい。

### Ⅲ. 学習指導要領における「読むこと」の言語活動：高等学校

現行の『高等学校学習指導要領』（平成21年改訂）には、高等学校における外国語（英語）の目標を、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。」と定めている。後半部分の「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う」とは、中学校での学習を土台として、リスニングの技能やリーディングの技能を通して得た情報や考えなどを的確に理解したり、自分から発信したい情報や考えなどをスピーキングの技能とライティングの技能を通じて適切に受け手に伝える能力のことであり、技能統合型による総合的な学習指導が含意されている。続いて、科目の「コミュニケーション英語Ⅰ」と「コミュニケーション英語Ⅱ」の目標と「読むこと」の言語活動の指導事項をまとめておく。

「コミュニケーション英語Ⅰ」の目標は、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。」として、中学校における「英語」の学習を前提とした指導内容になっている。そして、「コミュニケーション英語Ⅰ」では、「読むこと」の言語活動の指導事項として以下の4点を掲げている。

表3 高等学校「コミュニケーション英語Ⅰ」の「読むこと」の言語活動

- ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。
- ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。
- エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。

(出所)『高等学校学習指導要領』(平成21年改訂)

表3のうち、リーディングに関わる指導事項はイとウとエである。イの指導事項は、「黙読」と「音読」についての指導内容である。前半部分の「説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。」は「黙読」を意味しており、後半部分の「聞き手に伝わるように音読する。」と対になっている。「聞き手に伝わるように音読する」とは、説明や物語を読んで得た内容を、聞き手が的確に理解することができるように、その反応を確かめながら、リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴(話す速度や声の大きさなども含む)に注意して音声で表現することである。「音読」は内容を考えながら声に出して読むということが重要なので、本文を理解してから行うとともに、「音読」を行う形態としては、クラス全体、列や班ごとのグループ、左右・前後・斜めのペアなど様々に工夫したい。ウとエは、リーディングと他の技能と統合する技能統合型の指導事項である。ウの「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。」とは、(リスニングや)リーディングで得た情報や考えなど(英語の授業だけではなく他教科の授業を通して学んだことや、日常生活の中で学んだり経験したことも含む)について、話し合ったり意見の交換をしたりするというスピーキングと統合する言語活動のことである。エの「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く」とは、(リスニングや)リーディングで得た情報や考えなどを、書こうとする内容の要点を整理した上で短い文章で書くというライティングの技能と統合する言語活動である。このように、「コミュニケーション英語Ⅰ」の「読むこと」に関わる言語活動においても、中学校の「読むこと」と同様に、リーディングと他技能との統合型による指導を明記している。

「コミュニケーション英語Ⅱ」の目標は、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。」と設定している。この科目は、「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習を踏まえて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばすことを目指している。そして、「コミュニケーション英語Ⅱ」において、「読むこと」の言語活動について以下の4点を掲げている。

表4のうち、リーディングに関わる言語活動はイとウとエであるが、「コミュニケーション英語Ⅰ」



表4 高等学校「コミュニケーション英語Ⅱ」の「読むこと」の言語活動

- ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。
- ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。
- エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。

(出所)『高等学校学習指導要領』(平成21年改訂)

の学習を踏まえて、発展的な内容となっている。イは「黙読」と「音読」に関する指導内容である。「黙読」は「速読」と「精読」に分けられ、「音読」には「暗唱」が加わっている。「速読」とは、概要や要点を把握したり、必要な情報や考えなどを探したりするときのように、細部に拘泥せずに読み進めていく読み方のことである。「精読」とは、詳細を理解したり、文章の良さを味わって読んだり、書かれている情報や考えなどを自分の考えなどと対比させながら読み進めていったりする読み方のことである。「暗唱」とは、英文を単に暗記するだけではなく、暗記した英文の意味や書き手の意図などを理解した上で、リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴などに注意しながら、書き手の伝えたいことが相手に伝わるように音声で表現することである。また、文章の題材に「評論」と「随筆」が追加されている。ウとエは、リーディングと他の技能と統合する技能統合型の指導事項である。ウの「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。」とは、(リスニングや)リーディングで得た情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめるというスピーキングと統合する言語活動のことである。「コミュニケーション英語Ⅰ」では、「話し合ったり意見の交換をしたりする」という段階までの指導であったが、「話し合うなどして結論をまとめる」となり、多様な考え方ができる話題について、ペアやグループの間で満足できる結論を導くこと、論理的な話し合いを通して、合意できることや合意できないことについて共通の認識を得ることなどを含むものである。エの「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。」とは、(リスニングや)リーディングで得た情報や考えなどについて、一定の長さ以上の文章(例えば、複数のパラグラフからなるエッセイなど)を書くというライティングと統合する言語活動のことである。「コミュニケーション英語Ⅰ」では、「簡潔に書く」という内容の要点を短い文章で書くというものだったが、「まとまりのある文章を書く」となり、自分の考えや関連する情報を整理して論理の一貫性や段落構成など文章をまとめる工夫が必要である。このように、「コミュニケーション英語Ⅱ」の「読むこと」の言語活動においても、リーディングと他技能との統合型の指導が記述されている。

以上のように、中学校の学習指導要領の「読むこと」の言語活動と、高等学校の学習指導要領の「読

むこと」の言語活動のいずれにおいても、リーディングの指導を他の技能（リスニング・スピーキング・ライティング）の指導と統合する総合的な言語指導の実践が求められている<sup>(3)</sup>。

#### Ⅳ. クローズリーディングの定義

クローズリーディングとは、Taylor（1953）が英語母語話者の読解力を客観的に測定するために開発したクローズテスト（Cloze Test）を、英語学習者（英語非母語話者）用の読解教材として応用したものである。クローズテストとは、文章で構成されているテキストの  $n$  番目の語（通常は、8～10 番目）を空欄にして適語を補充させる出題形式の読解問題である。本来のクローズテストは、英語母語話者の読解力を測定するためのテストであったが、まもなく、英語学習者（英語非母語話者）の学習言語である英語の読解力を測定するためにも活用されるようになった。クローズテストを解くには、語句や文法の知識のみならず、類推、分析、統合、帰納、演繹などの総合的な思考力が問われることから、ESL（English as a Second Language）や EFL（English as a Foreign Language）の教科書、定期試験、入学試験のみならず、TOEFL、TOEIC、英検などの英語資格試験の読解問題などにも積極的に用いられている。先行研究には、クローズテストに関しては、望月（2013）、Daniel（2011）、Minotti（2011）、Pederson（2011）、鈴木・早田（2009）などにより、英語学習者の英語読解力に関する研究が盛んに行われてきたが、クローズリーディングに関しては、太田（2013）や奥羽・福元（2011）などがあるが未だ少ないので今後もさらなる研究が期待されている。

#### Ⅴ. クローズリーディングの教材の作成

クローズテストにおける空欄の作り方は、等間隔に空欄にする方法の他に、特定の内容語や機能語を空欄にする方法（動詞の原形を与えて適当な形に直させる形式なども含む）、重要な熟語や単語（新出語句を含む）を空欄にするなど目的に応じて様々な種類がある。ここでは、リーディングからスピーキングへ繋げる技能統合型の言語指導としてのクローズリーディングによる音読指導の教材を作成するので、定期的にテキストの  $n$  番目の語を空欄にする教材作成方法を選ぶことにする。それでは具体的に、中学校と高等学校の英語教科書を資料にして、クローズリーディングの音読指導で用いる教材の作成手順を説明する。

表5-1は、中学校1年の英語教科書『New Crown English Series 1』（三省堂）のLet's Read「Alice and Humpty Dumpty」の本文である。この物語の原作は、イギリスの作家Lewis Carrolの『不思議の国のアリス（*Alice's Adventure in Wonderland*）』で、児童文学の傑作として世界中で様々な言語に翻訳されて愛読されていることはよく知られているが、平易な英語で書かれていて英語のリズムを楽しむこともできるので、日本の中学校用の英語教科書（中学校1年～中学校3年）においても、『鏡の国のアリス（*Through the Looking-Glass, and What Alice Found There*）』とともに、長年に渡って継続的に使われている定番の作品である。物語の主人公であるアリス（Alice）が白ウサギに出会い、時間に遅れそうになって走っているウサギを追いかけるうちに、不思議の国へと繋がる穴に落ちてしまう場面である。

表 5-1 中学校英語教科書（中学 1 年）の本文

Alice saw a rabbit. The White Rabbit looked at his watch and said, "I'm late. I'm late." He ran into a hole in the ground and disappeared.

She followed him. Alice fell down the hole. Down, down, down, she fell. She went to Wonderland. . . . (以下, 省略) . . .

(出所)『New Crown English Series 1』(p.126)

表 6-1 は高等学校 2 年の英語教科書『Element English Communication II』（啓林館）の Pleasure Reading「Retrieved Reformation」の本文である。この物語の原作は、アメリカの作家 O Henry の『よみがえった改心（*A Retrieved Reformation*）』である。O Henry は数多くの短編小説を残しているが、なかでも『最後の一葉（*The Last Leaf*）』と『賢者の贈り物（*The Gift of Magi*）』とともに、中学校用と高等学校用の英語教科書（中学 2 年～高校 3 年）においても長年に渡って採用されている作品である<sup>(4)</sup>。物語の主人公である金庫破りのジミー・ヴァレンタイン（Jimmy Valentine）が刑期を終えて出所後、いくつかの町を転々とした後、ラルフ・スペンサー（Ralph Spencer）と名乗ってエルモア（Elmore）という町で生活を始める場面である。

表 6-1 高等学校英語教科書（高校 2 年）の本文

One afternoon Jimmy Valentine, with his suitcase in hand, climbed out of a cab in Elmore, a little town five miles off the railroad down in Arkansas. Jimmy, looking like a healthy young man just home from college, went down the board sidewalk toward the hotel.

. . . (以下, 省略) . . .

(出所)『Element English Communication II』(p.154)




クローズテストを作成するのと同じ要領で、本文の単語を前から順番に数えて n 番目の語を規則的に空欄にすることで、クローズリーディングの音読教材を作成する。表 5-1（中学校の英語教科書）と表 6-1（高等学校の英語教科書）の本文の語を、それぞれ最初の語から 6 語おきに空欄を設けた教材を標準レベルとして作成したものが表 5-2 と表 6-2 である。なお、 は難易度を表示するマークとし、表 5-2 と表 6-2 は  （標準レベル）とする。

表5-2 クローズリーディングの音読教材①（中学1年：レベル🌸🌸）

Alice saw a rabbit. The \_\_\_\_ Rabbit looked at his watch \_\_\_\_ said, "I'm late. I'm late."  
 \_\_\_\_ ran into a hole in \_\_\_\_ ground and disappeared.

She followed \_\_\_\_\_. Alice fell down the hole. \_\_\_\_\_, down, down, she fell. She \_\_\_\_ to  
 Wonderland. . . . (以下, 省略) . . .

表6-2 クローズリーディングの音読教材②（高校2年：レベル🌸🌸🌸）

One afternoon Jimmy Valentine, with \_\_\_\_ suitcase in hand, climbed out \_\_\_\_ a cab in  
 Elmore, a \_\_\_\_ town five miles off the \_\_\_\_ down in Arkansas. Jimmy, looking \_\_\_\_ a healthy  
 young man just \_\_\_\_ from college, went down the \_\_\_\_ sidewalk toward the hotel.

. . . (以下, 省略) . . .

空欄に入る語の最初の文字をヒントとして与えたものが表5-3と表6-3である。空欄にヒントがあると、クローズリーディングによる音読の難易度は易しくなるので、難易度の表示は🌸（初級レベル）とした。なお、ヒントの有無の選択は、生徒の実態に合わせて行うことになるが、教材を両面刷りにして、表面はヒントなしの教材で印刷して、裏面はヒント付きの教材で印刷するなど工夫しても良い。

表5-3 クローズリーディングの音読教材③（中学1年：レベル🌸）

Alice saw a rabbit. The W\_\_\_\_ Rabbit looked at his watch a\_\_\_\_ said, "I'm late. I'm late."  
 H\_\_\_\_ ran into a hole in t\_\_\_\_ ground and disappeared.

She followed h\_\_\_\_. Alice fell down the hole. D\_\_\_\_, down, down, she fell. She w\_\_\_\_ to  
 Wonderland. . . . (以下, 省略) . . .

表6-3 クローズリーディングの音読教材④（高校2年：レベル🌸🌸🌸）

One afternoon Jimmy Valentine, with t\_\_\_\_ suitcase in hand, climbed out i\_\_\_\_ a cab in  
 Elmore, a l\_\_\_\_ town five miles off the r\_\_\_\_ down in Arkansas. Jimmy, looking l\_\_\_\_ a  
 healthy young man just h\_\_\_\_ from college, went down the b\_\_\_\_ sidewalk toward the hotel.

. . . (以下, 省略) . . .

反対に、クローズリーディングによる音読の難易度を高めるには、空欄の間隔が狭くすると、読み手である生徒に、より負担をかけることになるので、可読性（Readability）の困難さが増すことになる。従って、6語おきに空欄を設定した表5-2と表5-2の教材よりも、3語おきに空欄を設定した表5-4と表6-4の教材の方が音読は一段と難しくなる。難易度の表示は🌸🌸🌸（上級レベル）とする。3語おきに空欄が設定されている教材をすらすらと流れるように音読するには、本文に登場する語彙（語・熟語）と文法事項はもちろん、本文の内容とストーリーの展開など細部に至るまでをしっかりと

と理解して、ある部分に関しては暗誦できる程度になるまで、本文を繰り返して内容を考えながら音読する練習を積み重ねることが必要である。

表5-4 クローズリーディングの音読教材⑤（中学1年：レベル🌸🌸🌸）パターン[A]

Alice saw \_\_\_\_ rabbit. The \_\_\_\_ Rabbit looked \_\_\_\_ his watch \_\_\_\_ said, "I'm \_\_\_\_\_. I'm late." \_\_\_\_ ran into \_\_\_\_ hole in \_\_\_\_ ground and \_\_\_\_.

She followed \_\_\_\_\_. Alice fell \_\_\_\_ the hole. \_\_\_\_, down, down, \_\_\_\_ fell. She \_\_\_\_ to Wonderland.

・・・（以下、省略）・・・

表6-4 クローズリーディングの音読教材⑥（高校2年：レベル🌸🌸🌸）パターン[A]

One afternoon \_\_\_\_ Valentine, with \_\_\_\_ suitcase in \_\_\_\_, climbed out \_\_\_\_ a cab \_\_\_\_ Elmore, a \_\_\_\_ town five \_\_\_\_ off the \_\_\_\_ down in \_\_\_\_.

Jimmy, looking \_\_\_\_ a healthy \_\_\_\_ man just \_\_\_\_ from college, \_\_\_\_ down the \_\_\_\_ sidewalk toward \_\_\_\_ hotel.

・・・（以下、省略）・・・

音読から暗誦へと繋げる工夫として、空欄の場所をスライドさせた教材の作成を推奨する。これまでに示した教材は、すべて文頭から数えて6番目もしくは3番目の語を空欄にしたものであったが、空欄の位置をスライドさせた教材も使うことで、空欄でなかった部分も覚えるようになる。例えば、表5-1の中学校英語教科書（中学1年）の本文で、表5-4をパターン[A]とすると、表5-5（パターン[B]）は、最初の空欄のみを2番目の語に、表5-6（パターン[C]）は最初の空欄のみを1番目の語にして、あとは3語ごとに空欄を設定した教材である<sup>(5)</sup>。

表5-5 クローズリーディングの音読教材⑦（中学1年：レベル🌸🌸🌸）パターン[B]

Alice \_\_\_\_ a rabbit. \_\_\_\_ White Rabbit \_\_\_\_ at his \_\_\_\_ and said, "\_\_\_\_ late. I'm \_\_\_\_." He \_\_\_\_ into a \_\_\_\_ in the \_\_\_\_ and disappeared.

\_\_\_\_ followed him. \_\_\_\_ fell down \_\_\_\_ hole. Down, \_\_\_\_, down, she \_\_\_\_.

She went \_\_\_\_ to Wonderland.

・・・（以下、省略）・・・

表5-6 クローズリーディングの音読教材⑧（中学1年：レベル🌸🌸🌸）パターン[C]

\_\_\_\_ saw a \_\_\_\_.

The White \_\_\_\_ looked at \_\_\_\_ watch and \_\_\_\_, "I'm late. \_\_\_\_ late." He ran into \_\_\_\_ hole in \_\_\_\_ ground and \_\_\_\_.

She followed \_\_\_\_.

Alice fell \_\_\_\_ the hole. \_\_\_\_, down, down, \_\_\_\_ fell. She \_\_\_\_ to Wonderland.

・・・（以下、省略）・・・

表6-1の高等学校英語教科書（高校2年）の本文で、表6-4をパターン[A]とすると、表6-5（パター



ン[B]は、最初の空欄のみを2番目の語に、表6-6（パターン[C]）は最初の空欄のみを1番目の語にして、あとは3語ごとに空欄を設定した教材である。3つのパターンの教材をすらすらとクローズリーディングによる音読ができるようになると、もはや音読で本文を読みながらリーディングをしているのではなく、自分の頭の中で考えて文を組み立てながらスピーキングをしているという感覚が生徒に芽生えてくるようになる。この感覚こそが、技能統合型による総合的な言語活動としてのクローズリーディングによる音読指導の効果である。そして、この感覚をすべての生徒に、程度の差こそあれ、少しでも体得させるようにすることが、クローズリーディングによる音読指導の目的である。

表6-5 クローズリーディングの音読教材⑨（高校2年：レベル $\text{***}$ ）パターン[B]

One \_\_\_\_ Jimmy Valentine, \_\_\_\_ his suitcase \_\_\_\_ hand, climbed \_\_\_\_ of a \_\_\_\_ in Elmore, \_\_\_\_ little town \_\_\_\_ miles off \_\_\_\_ railroad down \_\_\_\_ Arkansas. Jimmy, \_\_\_\_ like a \_\_\_\_ young man \_\_\_\_ home from \_\_\_\_, went down \_\_\_\_ board sidewalk \_\_\_\_ the hotel.  
 . . . (以下, 省略) . . .

表6-6 クローズリーディングの音読教材⑩（高校2年：レベル $\text{***}$ ）パターン[C]

\_\_\_\_ afternoon Jimmy \_\_\_\_, with his \_\_\_\_ in hand, \_\_\_\_ out of \_\_\_\_ cab in \_\_\_\_, a little \_\_\_\_ five miles \_\_\_\_ the railroad \_\_\_\_ in Arkansas. \_\_\_\_, looking like \_\_\_\_ healthy young \_\_\_\_ just home \_\_\_\_ college, went \_\_\_\_ the board \_\_\_\_ toward the \_\_\_\_.  
 . . . (以下, 省略) . . .

なお、実際のクラスにおいては、習熟度別の学級編成（私立校における学力別の学級編成も含む）ではない場合には、英語を不得意とする生徒（「スローラーナー」と呼ばれる）への配慮が必要である。例えば、基本レベルの教材（表5-3）でかなり難しいと感じる生徒には、理解と能力に応じて補助教材を作成する。例えば、表5-7のように、空欄の場所と数は基本レベルの教材（表5-3）と同じでも、空欄に意味（日本語）を与えたり、補充を1文字にしたり、発音が難しい語にはカタカナを付与するなどの工夫をする。表5-7の $\text{U}$ はアシスト付きの表示である。音読指導は、クラスのすべての生徒が自分のレベルに応じて、英語の得意と不得意に関わらず、楽しみながら達成感を味わう言語活動にすることが大切である。

表5-7 クローズリーディングの音読教材⑪（中学1年：レベル $\text{**U}$ ）

Alice saw a rabbit. The Wh<sub>te</sub>(白い) Rabbit looked at his watch a<sub>d</sub>(そして) said, "I'm late. I'm late." H<sub>\_(彼は)</sub> ran into a hole in t<sub>e</sub>(その) ground and disappeared.  
 She followed h<sub>m</sub>(彼に). Alice fell down the hole. D<sub>wn</sub>(下へ), down, down, she fell. She we<sub>t</sub>(行った) to Wonderland.  
 . . . (以下, 省略) . . .

## Ⅵ. クローズリーディングの授業実践

土屋（2011）が本文を理解していない段階での音読を「空読み」（意味を考えない音読）と指摘しているように、音読は内容を考えながら声に出して読むことが重要なので、本文の語彙（語・熟語）や文法、本文の内容を学習してある状態で行わなければならない。クローズリーディングによる音読も、意味を考えながら音読することがスピーキングの技能へ繋げる上で極めて重要である。

想定クラスは、図1で示すように、前後左右ともに6列ずつの在籍36名とする。（01から36は生徒を表す。）授業時間（50分）の配分は、最初の5分を「導入」、次の40分を「展開」（前半10分はクラス全体の活動、後半30分でペアワーク）、最後の5分を「まとめ」とする。

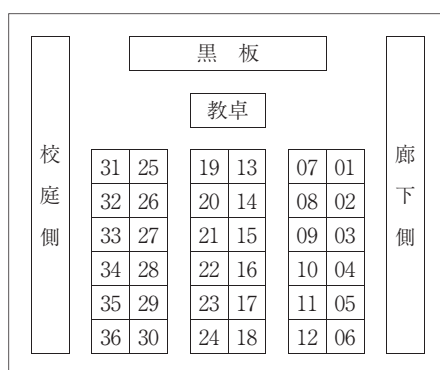


図1 教室例

「導入」の5分では、クラスルームイングリッシュによる簡単な日常表現を用いた挨拶の後に、ピクチャーカード（デジタル教科書を導入している場合にはその映像）などを活用しながら、教師のオーラルもしくはCDなどによる音声で本文の内容確認を行う。

「展開」の最初の10分は、フラッシュカードで本文の語彙（語・熟語）のチェックした後に、教科書を用いて音読練習を行う。この音読練習は、クラス全体で顔上げ音読（Read and Look Up）を行った後に、個人でバズリーディング（Buzz Reading）で自己確認を行う。

「展開」の残りの30分は、ペアワークでクローズリーディングの音読を行う。ペアワークは、読み手（配布教材で音読する生徒）とジャッジ（教科書で音読をチェックする生徒）の役割を順番に交代して行う。1セットを2分30秒（音読2分、インターバル30秒）とし、12セットで30分となる。なお、インターバルはペアの移動と準備の時間だがスタートまで読み手は教科書で確認できる。

「まとめ」の5分で、自己チェックシートで本時の学習の振り返りを行うとともに、音読した回数をポイントカードに記入させる。ペアワークをしているときの机間巡視で気づいた点があればクラス全体で音読指導を行うと良い。

続いて、クラス全体で行うペアワークのやり方のコツを説明する。図2で、下線のある番号の生徒は「読み手（音読教材で音読を行う生徒）」で、下線のない番号の生徒は「ジャッジ（教科書で音読をチェックする生徒）」である。2列目と3列目、4列目と5列目の生徒が輪になって、1回ごとに右回りに2つずつ進んで回転していく。例えば、1回目でペアとなる「07」（ジャッジ）と「01」（読み手）の生徒は、2回目では「07」の生徒は右回りに2つ移動して「03」の生徒とペアとなり、「01」の生徒は移動して来た「14」の生徒とペアとなるとともに、役割も交代して「01」の生徒はジャッジ、「07」の生徒は読み手となる。この流れを繰り返して行くと、7回目になるときに、図3のように、移動している生徒が1回目の場所に戻る。そこで、同時に一番外側の列（「01」から「06」と「31」から「36」）の生徒を交換する。そして、内側で輪となって回転している列の生徒が再び転回する。

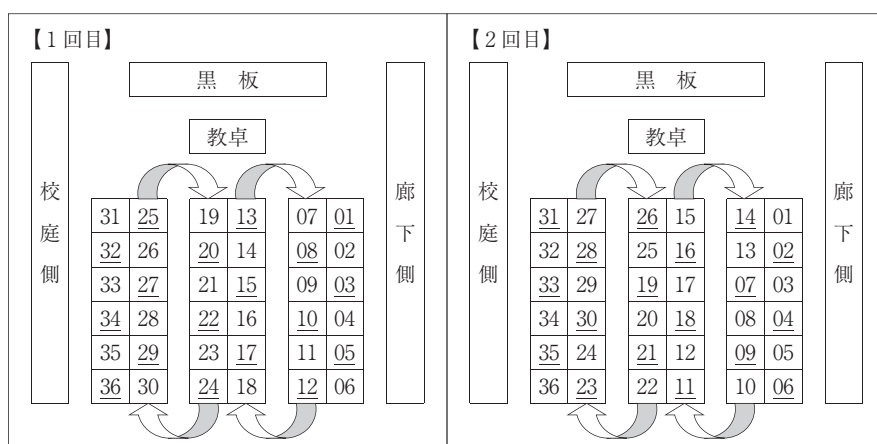


図2 クローズリーディングの音読ペアワーク①

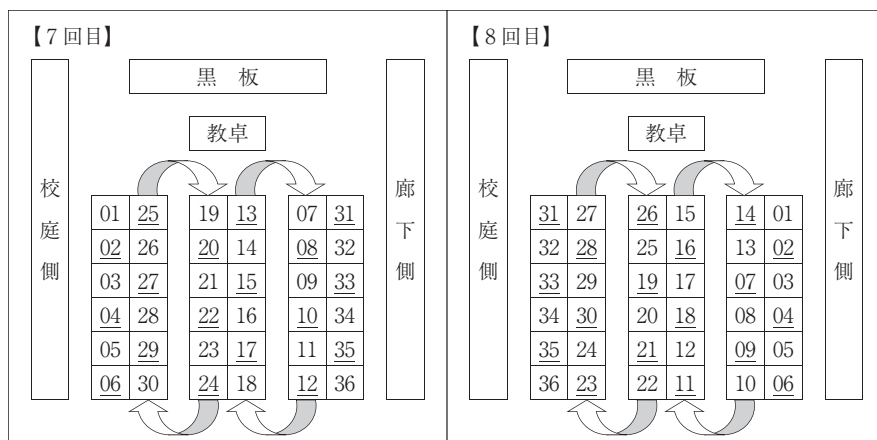


図3 クローズリーディングの音読ペアワーク②

このように、役割とペアを交代しながらペアワークを行うと、図4の右側の12回目で全員が読み手を6回、ジャッジも6回やり終えることになる。1回分の1セットが2分30秒（音読2分、インターバル30秒）で、12セット行うことになるのでちょうど30分となる。

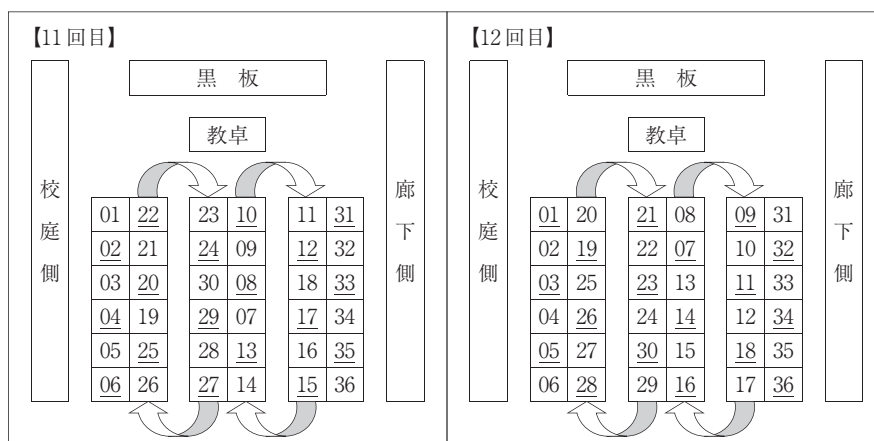


図4 クローズリーディングの音読ペアワーク③

## V. おわりに

本稿では、全国の中학생と高校生に実施した学習調査の結果から、4技能で最も苦手意識を感じていないリーディング（音読）の特長を活用して、スピーキングの育成に繋げる技能統合型のクローズリーディングによる音読指導を取り上げた。そして、実践に役立つ具体例として、中学校と高等学校の英語教科書を言語資料として、クローズリーディングで使用する教材の作成例と授業の展開例を論じた。リーディングにおける音読指導は、歴史的には江戸時代の寺子屋にまで遡ることになるが、戦後の日本の英語教育においても音読指導は昔から行われている。しかしながら、他技能統合型の総合的な言語指導（例えば、本稿で論じたスピーキングの技能へ橋渡しをすることを目的とした指導）としての音読指導は新しい指導方法であると言える。そもそも、言語というものは、4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）の能力がそれぞれ独立しているものではなく、相互に作用しているものである。確かに、母語を振り返ってみても、朝起きてから夜寝るまでの一日の中で、4技能による視覚・聴覚のみならず、味覚・触覚・臭覚、さらには知覚といった様々な全身の感覚を最大限に駆使して生活しているのである。つまり、私たちは、あらゆる技能を統合して総合的に活用しながら、日々のコミュニケーション活動を行っているのである。折しも、本稿執筆中の平成29年3月末日に、中学校で平成33年度から施行されることになる次期学習指導要領（『中学校学習指導要領』（平成29年改訂））が告示された。この次期学習指導要領においても、現行の学習指導要領に引き続いて、英語の4技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）を統合して総合的な指導を行う技能統合型の言語活動を推進する方針が伺えることから、今後も技能統合型の言語活動における研究報告と実践報告がますます注目されることになるであろう。

## 資料1 クローズリーディングの音読教材（中学1年：レベル☆☆）

A

Alice saw a rabbit. The \_\_\_\_ Rabbit looked at his watch \_\_\_\_ said, "I'm late. I'm late." \_\_\_\_ ran into a hole in \_\_\_\_ ground and disappeared.

She followed \_\_\_\_\_. Alice fell down the hole. \_\_\_\_\_, down, down, she fell. She \_\_\_\_\_ to Wonderland.

Alice saw a \_\_\_\_ egg on a high wall. \_\_\_\_ egg said, "I'm Humpty Dumpty. \_\_\_\_ your name, little girl?"

"My \_\_\_\_ is Alice," she said.

"Alice? \_\_\_\_ does it mean?"

"Does a \_\_\_\_ mean something?" she asked.

"Of \_\_\_\_ it does."

B

Alice saw a \_\_\_\_\_. The White Rabbit looked at \_\_\_\_ watch and said, "I'm late. \_\_\_\_ late." He ran into a \_\_\_\_ in the ground and disappeared.

\_\_\_\_\_ followed him. Alice fell down \_\_\_\_ hole. Down, down, down, she \_\_\_\_\_. She went to Wonderland.

Alice \_\_\_\_\_ a big egg on a \_\_\_\_ wall.

The egg said, "I'm \_\_\_\_\_ Dumpty. What's your name, little \_\_\_\_\_?"

"My name is Alice," she \_\_\_\_\_.

"Alice? What does it mean?"

"\_\_\_\_\_ a name mean something?" she \_\_\_\_\_.

"Of course it does."

C

Alice \_\_\_\_ a rabbit. The White Rabbit \_\_\_\_ at his watch and said, "\_\_\_\_ late. I'm late." He ran \_\_\_\_ a hole in the ground \_\_\_\_ disappeared.

She followed him. Alice \_\_\_\_ down the hole. Down, down, \_\_\_\_, she fell. She went to \_\_\_\_\_.

Alice saw a big egg \_\_\_\_ a high wall.

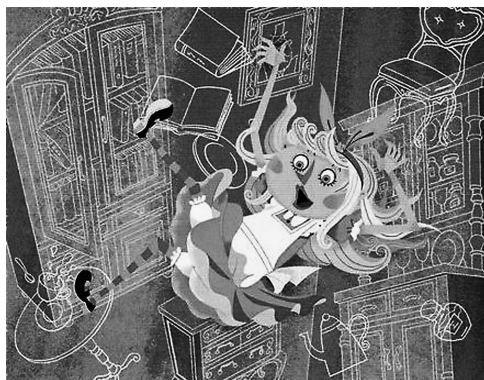
The egg \_\_\_\_, "I'm Humpty Dumpty. What's your \_\_\_\_, little girl?"

"My name is \_\_\_\_\_," she said.

"Alice? What does \_\_\_\_ mean?"

"Does a name mean \_\_\_\_?" she asked.

"Of course it \_\_\_\_\_."



(出所)『根岸雅史・日臺滋之・松沢伸二ほか 編 (2008),『New Crown English Series 1』三省堂.  
pp.126-127 から筆者作成



## 資料2 クローズリーディングの音読教材（中学1年：レベル🌸🌸🌸）

A

Alice saw \_\_\_\_ rabbit. The \_\_\_\_ Rabbit looked \_\_\_\_ his watch \_\_\_\_ said, "I'm \_\_\_\_\_. I'm late." \_\_\_\_ ran into \_\_\_\_ hole in \_\_\_\_ ground and \_\_\_\_\_.

She followed \_\_\_\_\_. Alice fell \_\_\_\_ the hole. \_\_\_\_\_, down, down, \_\_\_\_ fell. She \_\_\_\_\_ to Wonderland.

\_\_\_\_\_ saw a \_\_\_\_ egg on \_\_\_\_ high wall. \_\_\_\_\_ egg said, "\_\_\_\_ Humpty Dumpty. \_\_\_\_ your name, \_\_\_\_ girl?"

"My \_\_\_\_ is Alice," \_\_\_\_ said.

"Alice? \_\_\_\_ does it \_\_\_\_?"

"Does a \_\_\_\_ mean something?" \_\_\_\_ asked.

"Of \_\_\_\_ it does."

B

Alice \_\_\_\_ a rabbit. \_\_\_\_ White Rabbit \_\_\_\_ at his \_\_\_\_ and said, "\_\_\_\_ late. I'm \_\_\_\_." He \_\_\_\_ into a \_\_\_\_ in the \_\_\_\_ and disappeared.

\_\_\_\_\_ followed him. \_\_\_\_ fell down \_\_\_\_ hole. Down, \_\_\_\_\_, down, she \_\_\_\_\_. She went \_\_\_\_ Wonderland.

Alice \_\_\_\_ a big \_\_\_\_ on a high \_\_\_\_.

The egg \_\_\_\_\_, "I'm Humpty \_\_\_\_\_. What's your \_\_\_\_\_, little girl?"

"\_\_\_\_ name is \_\_\_\_\_," she said.

"\_\_\_\_? What does \_\_\_\_ mean?"

"Does \_\_\_\_ name mean \_\_\_\_\_?" she asked.

"\_\_\_\_ course it \_\_\_\_\_."

C

\_\_\_\_\_ saw a \_\_\_\_\_. The White \_\_\_\_\_ looked at \_\_\_\_ watch and \_\_\_\_\_, "I'm late. \_\_\_\_ late." He ran into \_\_\_\_ hole in \_\_\_\_ ground and \_\_\_\_\_.

She followed \_\_\_\_\_. Alice fell \_\_\_\_ the hole. \_\_\_\_\_, down, down, \_\_\_\_ fell. She \_\_\_\_\_ to Wonderland.

\_\_\_\_\_ saw a \_\_\_\_ egg on a \_\_\_\_ wall.

The \_\_\_\_ said, "I'm \_\_\_\_ Dumpty. What's \_\_\_\_ name, little \_\_\_\_\_?"

"My name \_\_\_\_ Alice," she \_\_\_\_\_.

"Alice? What \_\_\_\_ it mean?"

"\_\_\_\_ a name \_\_\_\_ something?" she \_\_\_\_\_.

"Of course \_\_\_\_ does."



(出所)『根岸雅史・日臺滋之・松沢伸二ほか 編 (2008),『New Crown English Series 1』三省堂.  
pp.126-127 から筆者作成

## 資料3 クローズリーディングの音読教材（高校2年：レベル☆☆）

A

One afternoon Jimmy Valentine, with \_\_\_\_\_ suitcase in hand, climbed out \_\_\_\_\_ a cab in Elmore, a \_\_\_\_\_ town five miles off the \_\_\_\_\_ down in Arkansas. Jimmy, looking \_\_\_\_\_ a healthy young man just \_\_\_\_\_ from college, went down the \_\_\_\_\_ sidewalk toward the hotel.

A \_\_\_\_\_ lady crossed the street, passed \_\_\_\_\_ at the corner, and entered \_\_\_\_\_ door over which was the \_\_\_\_\_ "The Elmore Bank." Jimmy Valentine \_\_\_\_\_ into her eyes, forgot what \_\_\_\_\_ was, and became another man. \_\_\_\_\_ lowered her eyes and her \_\_\_\_\_ turned slightly red. Young men \_\_\_\_\_ Jimmy's style and looks were \_\_\_\_\_ in Elmore.

B

One afternoon Jimmy \_\_\_\_\_, with his suitcase in hand, \_\_\_\_\_ out of a cab in \_\_\_\_\_, a little town five miles \_\_\_\_\_ the railroad down in Arkansas. \_\_\_\_\_, looking like a healthy young \_\_\_\_\_ just home from college, went \_\_\_\_\_ the board sidewalk toward the \_\_\_\_\_.

A young lady crossed the \_\_\_\_\_, passed him at the corner, \_\_\_\_\_ entered a door over which \_\_\_\_\_ the sign "The Elmore Bank." \_\_\_\_\_ Valentine looked into her eyes, \_\_\_\_\_ what he was, and became \_\_\_\_\_ man. She lowered her eyes \_\_\_\_\_ her face turned slightly red. \_\_\_\_\_ men of Jimmy's style and \_\_\_\_\_ were scarce in Elmore.

C

One \_\_\_\_\_ Jimmy Valentine, with his suitcase \_\_\_\_\_ hand, climbed out of a \_\_\_\_\_ in Elmore, a little town \_\_\_\_\_ miles off the railroad down \_\_\_\_\_ Arkansas. Jimmy, looking like a \_\_\_\_\_ young man just home from \_\_\_\_\_, went down the board sidewalk \_\_\_\_\_ the hotel.

A young lady \_\_\_\_\_ the street, passed him at \_\_\_\_\_ corner, and entered a door \_\_\_\_\_ which was the sign "The \_\_\_\_\_ Bank." Jimmy Valentine looked into \_\_\_\_\_ eyes, forgot what he was, \_\_\_\_\_ became another man. She lowered \_\_\_\_\_ eyes and her face turned \_\_\_\_\_ red. Young men of Jimmy's \_\_\_\_\_ and looks were scarce in \_\_\_\_\_.



(出所) 卯城祐司・磐崎弘貞ほか (2016), 『Element English Communication II』 啓林館.  
p.154 から筆者作成

## 資料4 クローズリーディングの音読教材（高校2年：レベル🌸🌸🌸）

A

One afternoon \_\_\_\_\_ Valentine, with \_\_\_\_\_ suitcase in \_\_\_\_\_, climbed out \_\_\_\_\_ a cab \_\_\_\_\_ Elmore, a \_\_\_\_\_ town five \_\_\_\_\_ off the \_\_\_\_\_ down in \_\_\_\_\_. Jimmy, looking \_\_\_\_\_ a healthy \_\_\_\_\_ man just \_\_\_\_\_ from college, \_\_\_\_\_ down the \_\_\_\_\_ sidewalk toward \_\_\_\_\_ hotel.

A \_\_\_\_\_ lady crossed \_\_\_\_\_ street, passed \_\_\_\_\_ at the \_\_\_\_\_, and entered \_\_\_\_\_ door over \_\_\_\_\_ was the \_\_\_\_\_ “The Elmore \_\_\_\_\_.” Jimmy Valentine \_\_\_\_\_ into her \_\_\_\_\_, forgot what \_\_\_\_\_ was, and \_\_\_\_\_ another man. \_\_\_\_\_ lowered her \_\_\_\_\_ and her \_\_\_\_\_ turned slightly \_\_\_\_\_. Young men \_\_\_\_\_ Jimmy’s style \_\_\_\_\_ looks were \_\_\_\_\_ in Elmore.

B

One \_\_\_\_\_ Jimmy Valentine, \_\_\_\_\_ his suitcase \_\_\_\_\_ hand, climbed \_\_\_\_\_ of a \_\_\_\_\_ in Elmore, \_\_\_\_\_ little town \_\_\_\_\_ miles off \_\_\_\_\_ railroad down \_\_\_\_\_ Arkansas. Jimmy, \_\_\_\_\_ like a \_\_\_\_\_ young man \_\_\_\_\_ home from \_\_\_\_\_, went down \_\_\_\_\_ board sidewalk \_\_\_\_\_ the hotel.

\_\_\_\_\_ young lady \_\_\_\_\_ the street, \_\_\_\_\_ him at \_\_\_\_\_ corner, and \_\_\_\_\_ a door \_\_\_\_\_ which was \_\_\_\_\_ sign “The \_\_\_\_\_ Bank.” Jimmy \_\_\_\_\_ looked into \_\_\_\_\_ eyes, forgot \_\_\_\_\_ he was, \_\_\_\_\_ became another \_\_\_\_\_. She lowered \_\_\_\_\_ eyes and \_\_\_\_\_ face turned \_\_\_\_\_ red. Young \_\_\_\_\_ of Jimmy’s \_\_\_\_\_ and looks \_\_\_\_\_ scarce in \_\_\_\_\_.

C

\_\_\_\_\_ afternoon Jimmy \_\_\_\_\_, with his \_\_\_\_\_ in hand, \_\_\_\_\_ out of \_\_\_\_\_ cab in \_\_\_\_\_, a little \_\_\_\_\_ five miles \_\_\_\_\_ the railroad \_\_\_\_\_ in Arkansas. \_\_\_\_\_, looking like \_\_\_\_\_ healthy young \_\_\_\_\_ just home \_\_\_\_\_ college, went \_\_\_\_\_ the board \_\_\_\_\_ toward the \_\_\_\_\_.

A young \_\_\_\_\_ crossed the \_\_\_\_\_, passed him \_\_\_\_\_ the corner, \_\_\_\_\_ entered a \_\_\_\_\_ over which \_\_\_\_\_ the sign “\_\_\_\_\_ Elmore Bank.” \_\_\_\_\_ Valentine looked \_\_\_\_\_ her eyes, \_\_\_\_\_ what he \_\_\_\_\_, and became \_\_\_\_\_ man. She \_\_\_\_\_ her eyes \_\_\_\_\_ her face \_\_\_\_\_ slightly red. \_\_\_\_\_ men of \_\_\_\_\_ style and \_\_\_\_\_ were scarce \_\_\_\_\_ Elmore.



（出所）卯城祐司・磐崎弘貞ほか（2016），『Element English Communication II』啓林館。  
p.154 から筆者作成

## 注

- (1) 根気がある生徒であればこのやり方で学習効果が上がるので成功する。だが、苦手意識が強い場合には、この学習方法では上手く行かないことが多い。なぜなら、苦手であるがゆえにいくら時間をかけても進まないし、気持ちばかりが焦って空回りしてしまうからである。さらに、得意科目の学習を放置したことで、その成績までも下がってしまうと、勉強そのものに対する意欲も減退してしまうことにもなりかねないという危険性も孕んでいる。
- (2) 表2のオの「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」は、現行の『中学校学習指導要領』（平成20年改訂）で新たに追加された指導事項であり、技能統合型による総合的な学習指導をさらに推進する方針を打ち出している。
- (3) この他、技能統合型の言語指導に関する記述としては、中学校では『中学校学習指導要領』の「指導計画の作成と内容の取扱い」の「教材選定の観点」において、「教材は、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を総合的に育成するため、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。」として、「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を総合的に育成する」としている。また、高等学校では『高等学校学習指導要領』の「内容の取扱い」において、「中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする。」として、「四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導する」としている。
- (4) 中学校の英語教科書においても、『よみがえった改心 (A Retrieved Reformation)』はよく採用されているが、原作の題名の単語は中学生にとっては難度が高いため、主人公の名前を利用して『ジミー・ヴァレンタイン (Jimmy Valentine)』を単元のタイトルしていることが多い。なお、O Henry の作品は英語教科書のみならず国語教科書においてもしばしば採用されている。
- (5) 空欄の場所をスライドして、それぞれ[A]から[C]までの3つのパターンの空欄を設けた教材を、資料1から資料4に掲載している。資料1は中学校英語教科書（中学1年）の6語おき、資料2は中学校英語教科書（中学1年）の3語おき、資料3は高等学校英語教科書（高校2年）の6語おき、資料4は高等学校英語教科書（高校2年）の3語おきに空欄を設けた教材である。最終的には、[A]から[C]のいずれにおいても、すらすらと音読できるようになることが望ましいが、生徒の学習状況に応じて、[A]から[C]の3つのパターンを適宜活用すると良いであろう。

## 参考文献

- ベネッセ総合教育研究所 (2014), 『中高生の英語学習に関する実態調査2014』ベネッセ総合教育研究所.
- Brown, Douglas (2007). *Teaching by Principles : An Interactive Approach to Language Pedagogy*. New York : Pearson Education.
- Carey, Benedict (2014). *How we learn : the surprising truth about when, where, and why it happens*. New York : Random House.
- Daniel, Jenks (2011), "Factors Affecting Cloze Test Performance," *The Kanda Journal* 23 : 315-333.
- Grellet, Françoise (1981). *Developing Reading Skills*. New York : Cambridge University Press.
- Harmer, Jeremy (2007). *How to Teach English*. Harlow : Pearson Longman.
- 池谷裕二 (2002), 『最新脳科学が教える高校生の勉強法』東進ブックス.
- 伊東治己 (2016), 『インタラクティブな英語リーディングの指導』研究社.
- 門田修平・野呂忠司・氏木直人 編 (1989), 『英語リーディングの指導ハンドブック』大修館書店.
- 金谷 憲 編 (2009), 『英語授業ハンドブック中学校編』大修館書店.
- 金谷 憲 編 (2012), 『英語授業ハンドブック高等学校編』大修館書店.

- 川島隆太 (2003), 『脳を育て夢をかなえる』 くもん出版.
- 國弘正雄 (1999), 『國弘流 英語の話し方』 たちばな出版.
- 松村幹男 編 (1998), 『英語のリーディング』 大修館書店.
- 葉袋洋子 (1993), 『リーディングの指導』 研究社.
- Minotti, Tony (2011). "A Comparison of the Guided Reading Method and the Cloze Method and Their Effects on Reading Comprehension," *Shoin ELTC Forum* 3 : 17-23.
- 文部科学省 (2008), 『中学校学習指導要領解説外国語編』 開隆堂.
- 文部科学省 (2010), 『高等学校学習指導要領解説外国語編』 開隆堂.
- 文部科学省 (2017), 『中学校学習指導要領』 文部科学省.
- 望月昭彦 (2013), 「クローズテスト, Cテスト, 選択式クローズテストの比較: 5つの視点から」『語学教育研究論叢』 30 : 235-287.
- 望月昭彦・深澤 真・印南 洋・小泉利恵 編 (2015), 『英語 4 技能評価の理論と実践』 大修館書店.
- 根岸雅史・日臺滋之・松沢伸二ほか 編 (2008), 『New Crown English Series 1』 三省堂.
- 太田待子 (2013), 「穴あき音読の効果の検証性」『筑波英語教育』(筑波英語教育学会編) 34 : 63-74.
- 奥羽充規・福元広二 (2011), 「英語授業における音読活動の効果的指導法について: クローズ音読の活用法」『鳥取大学地域学部紀要』 7 (3) : 417-426.
- Pederson, Stan (2011), "Assessing Progress in an Extensive Reading Program Using a Cloze Test," *Bulletin of the Faculty of Education Kumamoto University* 60 : 65-68.
- Rye, James (1982). *Cloze procedure and the teaching of reading* : London : Heinemann Educational.
- 佐藤史郎 (1988), 『クローズテストと英語教育』 南雲堂.
- 鈴木光代・早田美保 (2009), 「英文読解における学生のつまづき: クローズテストの誤答分析より考察」『愛媛県立医療技術大学紀要』 6 : 43-48.
- 高梨庸雄・高橋正夫 (1987), 『英語リーディング指導の基礎』 研究社.
- 高梨庸雄・卯城祐司 (2000), 『英語リーディング事典』 研究社.
- Taylor, Wilson (1953). "'Cloze Procedure' A New Tool for Measuring Readability," *Journalism Quarterly* 30 : 415-433.
- Taylor, Wilson (1956). "Recent Developments in the Use of 'Cloze Procedure'," *Journalism Quarterly* 33 : 42-48.
- 土屋澄男・広野威志 (2000), 『新英語科教育法入門』 研究社.
- 土屋澄男 編 (2011), 『新編英語科教育法入門』 研究社.
- 卯城祐司 編 (2009), 『リーディングの科学』 研究社.
- 卯城祐司・磐崎弘貞ほか (2016), 『Element English Communication II』 啓林館.